

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：33107

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01005

研究課題名（和文）日韓会談反対運動に関する日常史研究 日本朝鮮研究所事務局長の日記分析を中心にして

研究課題名（英文）The life history of the movement against Japan-the ROK normalization talks: with analyzing the diary of the executive director of Japan-Korea Research Institute

研究代表者

吉澤 文寿 (Yoshizawa, Fumitoshi)

新潟国際情報大学・国際学部・教授

研究者番号：30440457

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は日本朝鮮研究所事務局長の半生とその思想的基盤を明らかにする作業を軸とすることで、日本で植民地支配を批判する思想が形成される土壌および過程に対する日常史的視角からの理解を目指した。

その結果、（1）同氏が生前に託した日記類の整理を通して、同氏が日本朝鮮研究所を離れる1968年までの活動の軌跡を追うことができた。（2）新潟県内の元参議院議員（故人）の蔵書調査および（3）同氏のライフヒストリーに関わる在朝日本人史、日朝友好運動、在日朝鮮人史に関する先行研究及び関連資料を整理することができた。

これらの調査を元に、研究発表を実施し、同氏のライフヒストリーをまとめた論文を発表することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は近年のライフヒストリーに注目する研究動向を追いながら、社会運動に参画した人物に注目した歴史叙述を模索した。本研究では、日本朝鮮研究所初代事務局長が抱いた「朝鮮」のイメージについて、（1）生まれ故郷としての原風景の「朝鮮」、（2）社会運動に関与しながら獲得した、平和を希求する人民としての「朝鮮」、そして、大学生活以後に交流した人間関係を通して学んだ「朝鮮」と整理した。これらの「朝鮮」のイメージが道標となり、同氏は日朝友好運動の活動家への道を選んだのである。

このような「小さな物語」は、通史などの「大きな物語」に絡めて論じることで、歴史叙述を豊かにすることができる。

研究成果の概要（英文）：This research observes the life history and ideological basis of the first director of the Japan-Korea Research Institute (JKRI, Nihon Chosen Kenkyujo), and aimed to understand the soil and process in which critical stance against Japanese colonial rule over Korea was build from the perspective of the daily life history.

Through the research, (1) we reveal his half life from his birth in Korea to leaving JKRI until 1968 by his diaries, which we got from him while he was alive, (2) we surveyed the books of the departed former member of the House of Councillors in Niigata Prefecture, and (3) we collected and organized previous research and related materials on the history of Japanese people in colonial Korea, the Japan-Korea friendship movement, and Koreans in Japan that are related to his life history.

Based on these investigations, we had hold research presentations and publish a paper summarizing his life history.

研究分野：歴史学

キーワード：日記研究 日韓会談反対運動 日常史 引揚者 在朝日本人 在日朝鮮人 日韓条約 日本朝鮮研究所

1. 研究開始当初の背景

日韓会談反対運動に関する研究状況について、以下の二点が指摘できる。第一に、従来の研究では、日韓会談反対運動で萌芽した植民地支配を批判する視座に対する歴史的背景が十分に追及されたということができない。それは、朝鮮認識をめぐる言説分析に焦点を当てて研究が進展している半面、それらの言説が形成されたより広い歴史的状況の解明が追いついていない、不十分であることによる。第二に、日韓会談反対運動を含めた日本の植民地責任論あるいは平和運動研究が海外に十分開かれ、研究交流を深めてきたとは言い難い。

本研究はこれらの点を踏まえて、日韓会談反対運動に関与した人々がどのような日常を過ごし、どのような思想的営為を行ってきたのかという日常史的関心をもって、そのような人々の活動の軌跡を明らかにすることにより、これらの課題を克服しようとするものである。この運動が行われていた当時は、アジア・太平洋戦争および朝鮮などの植民地支配が終わってから20年しか経っておらず、その記憶が生々しく語られる時期であった。そのような日常を生き抜いた活動家の関心や思想的営為に注目することにより、どのような歴史的背景をもって朝鮮問題を考えるに至ったのか、そして戦争に反対する平和への希求がどのように関連付けられて理解されていたのか、という本研究課題の核心をなす「問い」に接近することができる。

戦争、植民地支配、そして冷戦といった直接的なテーマから、恋愛、文化、娯楽、その他の生活に関するテーマまで、個人の経験が個別のものでありながら、当時を生き抜いた人々が何らかのかたちで共有していたものとして複雑に編み込まれる思想的基盤を読み込むツールとして活用する作業は、相当に労力と時間が要求される。しかし、このような基礎作業こそ、学問そのものの基盤形成に大きく寄与するものである。

2. 研究の目的

本研究は日本における日韓会談反対運動研究に欠落していた、活動家あるいは思想家が有する日常的、思想的経験の実相を明らかにする作業を通して、日韓会談反対運動で主張されてきた内容に新たな意味、そして「空間」を与えることによって、既存の研究を克服し、さらに進展させることを目指す。

本研究の学術性および創造性は、既存の日韓会談反対運動研究が活字化された史料を中心に史実や論理の意味連関の再構築に留まってきたのに対して、活字化される以前の日常生活における経験および思想的遍歴または蓄積の存在を明らかにするところにある。そして、活字化されたテキストの読み込みに留まる歴史叙述を「平面的」と呼ぶなら、この研究はそれらに日常生活を通じた思想的経験という新たな軸を与えることで、それらを「立体的」に再構成しようとするものである。

また、本研究は日韓会談反対運動研究が日本国内、または韓国との研究交流にとどまっている現状を踏まえて、それをさらに米国などにおけるアジア研究者との交流に広げることを目指している。日本現代史、または日朝関係史の研究成果を海外に発信して、交流を図ることにより、より多くの研究者がこのテーマに関心を持つ効果が期待される。

3. 研究の方法

この研究では日本朝鮮研究所の事務局長を務めた木元賢輔氏が遺した日記やインタビュー記録を手掛かりにする。木元氏は同時代に活躍した寺尾五郎、藤島宇内、畑田重夫らの活動家とは異なり、事務局の中心的役割を担いながら彼らの活動を下支えしてきた。本研究は、木元氏のような活動家が日常的に経験してきたことに、日本の植民地責任論、ひいては日本の平和運動を読み解くうえで重要な要素を見出そうとしている。すなわち、木元氏の経験は多くの部分で当時の活動家に共通するものであり、その経験自体が木元氏周辺に止まらない同時代的世界の断片であるという側面に注目する。本研究は、このような課題意識をもって、植民地朝鮮で出生した木元氏が、日本で日朝友好運動に関与しながら、思想的な営為とともに運動圏内外における様々な人間関係を形成する過程を、できる限り丁寧に解明する。

4. 研究成果

まず、木元氏の出生から死去までの年譜を作成し、優先順位が高い1960年代までの日記(読書ノート)、手帳、インタビュー史料を整理した。日記をPDF形式で複写・保存した上で、それらの記述に対する整理及び分析を詳細に行った。インタビュー史料はすべて文字起こしをすることにより、日記の記述を補う重要な口述を確認した。さらに、これらの研究成果を補完するために、以下の作業を行った。

第一に、新潟県十日町市にある参議院議員であった吉岡吉典氏の蔵書を調査し、日本朝鮮研究

所をはじめとする日朝友好団体を含む平和運動団体に関する重要史料の収集を実施した。

第二に、木元氏の遺族、元高麗博物館館長の樋口雄一氏らと定期的に面会し、情報収集を行った。とくに、木元氏の遺族は長女のみならず、大阪在住の親族とも面談する機会を得た。樋口雄一氏は在日朝鮮人運動史研究会関東部会の責任者であるため、同研究会に継続的に参加し、木元氏に関連する情報や回想などに随時接することができた。同志社大学の太田修教授の紹介で、京都に在住する立命館大学時代の木元氏の友人（2023年2月に逝去）に面会することができた。

第三に、木元氏の思想的営為に関連する文献を含め、日韓会談反対運動に関する資料を収集した。このほか、大分、大阪、京都におけるフィールドワークを実施し、木元氏の足跡を追うとともに、関連資料を収集した。

これらの調査を元に、海外を含む学会及び研究会の例会などで研究発表を数度実施した。そして、最終的に出生した1932年から日本朝鮮研究所を離れた1968年までの、木元氏のライフヒストリーを研究論文として発表することができた。そのほか、本研究は、関連する研究活動にも活用された。

本研究は近年のライフヒストリーに注目する研究動向を追いながら、社会運動に参画した人物に注目した歴史叙述を模索した。本研究では、日本朝鮮研究所初代事務局長が抱いた「朝鮮」のイメージについて、(1)生まれ故郷としての原風景の「朝鮮」、(2)社会運動に関与しながら獲得した、平和を希求する人民としての「朝鮮」、そして、大学生活以後に交流した人間関係を通して学んだ「朝鮮」と整理した。これらの「朝鮮」のイメージが道標となり、同氏は日朝友好運動の活動家への道を選んだのである。

このような「小さな物語」は、通史などの「大きな物語」に絡めて論じることで、歴史叙述を豊かにすることができる。

<おもな研究成果>

<研究報告>

(1)「日韓会談反対運動に関する日常史研究(1960~1965年)」(立命館大学日韓関係研究会、Zoomによるオンライン開催、2020年9月26日)

(2)「日韓会談反対運動に関する日常史的研究 日本朝鮮研究所事務局長の日記を通して(1946年8月から1950年3月まで)」(在日朝鮮人運動史研究会関東部会例会、新宿リサイクル活動センター2階会議室B、2021年6月27日)

(3)「日韓会談反対運動に関する日常史的研究 日本朝鮮研究所事務局長の日記を通して(1950年4月から1952年5月まで)」(朝鮮史研究会関東部会12月例会、Zoomによるオンライン開催、2021年12月18日)

(4)「日韓会談反対運動に関する日常史研究 日本朝鮮研究所事務局長の日記を通して(1953年4月から1959年11月まで)」(在日朝鮮人運動史研究会関東部会例会報告、2022年12月18日)

(5)「日韓会談反対運動に関する日常史研究 日本朝鮮研究所事務局長の日記を通して(1932年から1968年まで)」(在日朝鮮人運動史研究会関東部会2023年6月例会、上智大学2号館603号室、2023年6月25日)

(6)「Historical Analysis of a Diary - What Makes Him a Japanese Activist for Friendship with Korea, 1932-1968」(The Midwest Conference on Asian Affairs 2023 at University of Illinois at Urbana-Champaign on Sep 29, 2023) [presented by Dr. Jinhee Lee as deputy because of my traffic accident]

<招待講演>

(1)「日韓会談反対運動に関する日常史研究(1960~1965年)」(韓国・ソウル、高麗大学校アジア問題研究院、Zoomによるオンライン開催、2022年2月14日)

<論文>

(1)「或る日朝友好運動活動家の軌跡 日本朝鮮研究所事務局長の日記およびインタビュー記録を通して」(『在日朝鮮人史研究』第53号、2023年10月、95-110頁)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 吉澤文寿	4. 巻 925
2. 論文標題 日韓・日朝関係をどう解きほぐすか 国交正常化交渉の歴史的経過から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 204-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉澤文寿	4. 巻 835
2. 論文標題 最近の植民地支配責任をめぐる動向について 2018年10月の韓国大法院の判決などを糸口に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 73-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉澤文寿	4. 巻 53
2. 論文標題 或る日朝友好運動活動家の軌跡 日本朝鮮研究所事務局長の日記およびインタビュー記録を通して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 在日朝鮮人史研究	6. 最初と最後の頁 95-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 吉澤文寿
2. 発表標題 日韓会談反対運動に関する日常史研究 日本朝鮮研究所事務局長の日記を通して（1953年4月から1959年11月まで）
3. 学会等名 在日朝鮮人運動史研究会関東部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉澤文寿
2. 発表標題 日韓会談反対運動に関する日常史的研究 日本朝鮮研究所事務局長の日記を通して（1946年8月から1950年3月まで）
3. 学会等名 在日朝鮮人運動史研究会関東部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉澤文寿
2. 発表標題 日韓会談反対運動に関する日常史的研究 日本朝鮮研究所事務局長の日記を通して（1950年4月から1952年5月まで）
3. 学会等名 朝鮮人運動史研究会関東部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉澤文寿
2. 発表標題 日韓会談反対運動に関する日常史研究（1960～1965年）
3. 学会等名 高麗大学校アジア問題研究院（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉澤文寿
2. 発表標題 日韓会談反対運動に関する日常史的研究（1960～1965年）
3. 学会等名 立命館大学日韓関係研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉澤文寿
2. 発表標題 韓半島における平和体制構築と日本 - 植民地支配、分断、そして朝鮮戦争
3. 学会等名 民族和解協力汎国民協議会 (韓国・ソウル) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉澤文寿
2. 発表標題 韓日請求権協定完結論の克服: 日本軍'慰安婦'被害と正面から向き合うために
3. 学会等名 東北亜歴史財団 (韓国・ソウル) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉澤文寿
2. 発表標題 日韓会談反対運動に関する日常史研究 日本朝鮮研究所事務局長の日記を通して (1932年から1968年まで)
3. 学会等名 在日朝鮮人運動史研究会関東部会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 YOSHIZAWA Fumitoshi
2. 発表標題 Historical Analysis of a Diary - What Makes Him a Japanese Activist for Friendship with Korea, 1932-1968
3. 学会等名 The Midwest Conference on Asian Affairs (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 小山田 紀子、吉澤 文寿、ウォルター・ブリュイエール=オステル	4. 発行年 2023年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 544
3. 書名 植民地化・脱植民地化の比較史 フランス-アルジェリアと日本-朝鮮関係を中心に	

1. 著者名 都志煥	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東北亜歴史財団（韓国）	5. 総ページ数 356
3. 書名 サンフランシスコ講和条約70年の歴史と課題	

1. 著者名 吉澤文寿	4. 発行年 2021年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 280
3. 書名 日韓会談研究のフロンティア	

1. 著者名 吉澤文寿（厳泰奉訳）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 イダムブックス（韓国）	5. 総ページ数 285
3. 書名 韓日会談1965 戦後韓日関係の原点を検証する	

1. 著者名 吉澤文寿 (共同執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東北亜歴史財団韓日歴史問題研究所 (韓国・ソウル)	5. 総ページ数 410
3. 書名 韓日協定と韓日関係 1965年体制は克服可能か?	

1. 著者名 内海愛子、吉澤文寿、川上詩朗	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新日本出版社	5. 総ページ数 256
3. 書名 日韓の歴史問題をどう読み解くか	

1. 著者名 吉澤文寿、長澤裕子、薦田真由美、金鉉洙、浅野豊美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 現代史料出版	5. 総ページ数 449
3. 書名 日韓国交正常化問題資料 第 期 1963～1965年 韓国側資料 第12巻 会議録 1	

1. 著者名 吉澤文寿、長澤裕子、薦田真由美、金鉉洙、浅野豊美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 現代史料出版	5. 総ページ数 492
3. 書名 日韓国交正常化問題資料 第 期 1963～1965年 韓国側資料 第13巻 会議録 2	

1. 著者名 吉澤文寿、長澤裕子、薦田真由美、金鉉洙、浅野豊美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 現代史料出版	5. 総ページ数 651
3. 書名 日韓国交正常化問題資料 第 期 1963～1965年 韓国側資料 第14巻 漁業 1	

1. 著者名 吉澤文寿、長澤裕子、薦田真由美、金鉉洙、浅野豊美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 現代史料出版	5. 総ページ数 484
3. 書名 日韓国交正常化問題資料 第 期 1963～1965年 韓国側資料 第15巻 漁業 2	

1. 著者名 吉澤文寿、長澤裕子、薦田真由美、金鉉洙、浅野豊美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 現代史料出版	5. 総ページ数 407
3. 書名 日韓国交正常化問題資料 第 期 1963～1965年 韓国側資料 第16巻 請求権・文化財・基本関係	

1. 著者名 吉澤文寿	4. 発行年 2019年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 336
3. 書名 歴史認識から見た戦後日韓関係	

1. 著者名 吉澤文寿	4. 発行年 2019年
2. 出版社 一潮閣（韓国・ソウル）	5. 総ページ数 496
3. 書名 現代韓日問題の起源 韓日会談と「戦後韓日関係」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------